

6月から各種検診がはじまります。
健康管理のため、年に1度は検診を受けましょう。

今年度から新設した検診についてお知らせします。

私の健康



◆大腸がん・肺がん検診の個別検診

これまで集団検診会場でしか受けられなかった大腸がん・肺がん検診を、医療機関で個別に受診することができます。

- ・検診受診期間…6月1日(水)～平成29年2月28日(火)
- ・受診できる医療機関…検診ガイドブック(6ページ)をご覧ください。
- ・大腸がん検診容器については、事前に受診する医療機関で受け取ってください。
- ・個別検診料金：600円(70歳以上は200円)

◆レディース検診

- ・対象…30歳以上の女性
- ・検診内容
 - ①身体測定、血液検査、尿検査等(40歳以上の人は自動的に特定健診になります)
 - ②乳がん・子宮頸がん検診
 - ③骨密度検査(30歳～65歳：5歳刻みで受診券がある人のみ)
- ・その他 レディース検診日は託児があります。(事前に申し込みが必要)



◆歯周疾患検診

- 歯周疾患を予防・早期発見するための検診です。
- ・対象者…40歳・50歳・60歳・70歳の節目年齢の人に受診券を送付します。
- ・検診受診期間…6月1日(水)～平成29年2月28日(火)
- ・受診できる医療機関…送付する受診券の医療機関一覧表を参照してください。
- ・検診料金…1300円(70歳の人は無料)

☎健康づくり課 ☎(21)0267

おはなし



たむら まさえ 田村 政江 さん
(落合町阿部)

今号から、健康について話を聞くコーナーが始まりました。

仲間がいるので、頑張れる

私が健康に気をつけるようになったきっかけは、市で行っている特定保健指導教室に参加したことでした。それ以前は「何か健康に良いことをしなくては…」と思いつながら、実際にはなかなか踏み出せなかったのです。教室に参加して、仲間に出会ったことで、頑張りを継続できるようになりました。

現在は、毎朝5～6キロのウォーキングをしています。ウォーキングをする時は、手を後ろに振り、肩甲骨がしっかり動くように気を付けています。その他にも、犬と散歩している時に片足立ちをしたり、外出先では階段を使ったりと、工夫をして身体を動かしています。

目標は「ペンペンころり」!

「ペンペンころり」が目標です(笑)。食べ物や食事の仕方について、ウォーキングを続けて、人生も楽しく歩みたいと思っています。

歌書画三芸 清水比庵



第5回

文 加古 一郎

歴史美術館主任学芸員

昭和31年(1956)6月30日、

比庵と深い親交を持った日本画家・川合玉堂が亡くなりました。翌年、玉堂の追悼展として最後の野水会展が開かれました。これとは別に比庵展は各地で開催されるようになり、比庵の歌書画三位一体の作品は広く知られるようになりました。

昭和37年には、いづれも日本画家である奥村土牛、小倉遊亀、酒井三良の賛助を得て、弟・三溪とともに有山会展を開きました。この三人の日本画家とも小品ではあるものの、比庵が短歌を添えた合作を残しています。80歳になった比庵はこの頃から作風が変化し、画面から一杯の奔放なものとなり、益々活力のある作品を生み出していきました。

昭和41年84歳の時、比庵は宮中歌会始の儀で、召人(特に天皇から召された者)を拝命し、御題「声」に対して詠進歌(第1回参照)を献じました。

比庵は80歳を越えてから、その歌

風、書風、画風が確立し、その三者が絶妙なバランスで画面を構成し、数多くの作品が生みだされました。また、紙の上だけではなく、陶器に絵付けをしたものや、帯、団扇、扇子に描かれた作品、書籍の装丁などもありました。

その一方で、歌は歌、書は書、画は画として独立して完成されたものでもあり、歌人、書家、画家それぞれに高い評価を受け、多くの愛好家も出現しました。

展覧会の開催を始め、書画集と歌集を兼ねた出版物も逐次刊行され、比庵芸術は広く親しまれるようになりました。

昭和43年、比庵の歌の発表の場であった。



花紅柳緑

「水清く柳はみどりくれなゐに花咲きみちてあれとももんせ」

た歌誌「下野短歌」が全国的な発展を遂げ、それに伴い「窓日」と改題し、比庵がその主宰をつとめるようになりました。

比庵は、歌のほかにも多くの随筆も残しています。歌誌「二荒」以来、歌論をはじめ、多様な内容の随筆を寄稿しており、昭和44年には随筆集「紅をもて」を刊行しています。

また、この年、雑誌記事によって「いま良寛」と呼ばれるようになりました。比庵は以前から江戸時代末期の禅僧・良寛を敬慕し、書も良寛の「秋萩帖」を参考にしていたと語っています。良寛を題材にした短歌を詠み、あるいは良寛の短歌や漢詩を書いた作品も残しています。

昭和46年9月、89歳の比庵は高梁市名誉市



病臥五十日(絶筆)

「大なる文字書きてをる夢ばかり病臥五十日(また書き足す)」

民に推たいされました。郷土の生んだ偉大な芸術家として幅広い活動に對しての推たいと考えられます。

山河の遠きみおやの墓どころ 名誉市民 比庵つつしみて
昭和48年10月には、比庵短歌の集大成となる自選歌集「比庵晴れ」を刊行しました。比庵が詠みためた歌集の内、「魚崎」(未発表)、「夕暮」、「朝明」、「春秋」(「野水帖比庵歌・書・画」所収)を中心に選り推しを加え、それに晩年の短歌を加えて編集したものでした。

比庵92歳の時には「窓日」は45周年を迎え、翌年には日本短歌雑誌連盟から優良歌誌として表彰もされました。「窓日」は現在も活動を続けています。

昭和50年10月24日、比庵は作品制作に意欲をみせつつも静かに逝去しました。満92歳8カ月でした。

(終わり)